

令和元年度

学校防災ボランティア事業 活動報告書



令和元年8月5日（月）～8日（木）

三重県教育委員会
マスコットキャラクター

みえびい



1 はじめに

近年、全国で「想定外」「数十年に一度」と言われる大規模自然災害が頻発しています。

「令和」という新しい時代に入っても、9月には県北部を中心に記録的な大雨に見舞われ、10月には、全国で広域にわたり甚大な被害をもたらした台風第19号の影響とその後続く前線と低気圧による大雨で、県内各地で土砂崩れや床上・床下浸水などの被害が相次ぎました。台風第19号による被害のあった全国の各地域では、現在も復旧活動が続けられています。

県においては、南海トラフ地震の発生が危惧されるとともに、近年の経験したことがないような気象現象が頻発していることを考えると、いつどこで大規模災害が発生してもおかしくない状況にあることから、自然災害から子どもたちの命を守るため、学校における防災教育の推進と防災対策の充実に取り組んでいるところです。

本事業は、県内の中高生が東日本大震災の被災地を訪問し、現地の方がどのような被災体験をされ、どのように復興に向かって取り組んでいるのかを学習することで、大規模な自然災害発生時に、地域で自ら行動できる防災人材となることをめざして、4年前から実施しています。今年度は37名が参加し、参加生徒たちは、本事業を通して防災士の資格を取得したり、学校や地域で活動成果を発表したりして、本事業への参加だけに留まらず、活動を続けています。

現地を「生の目」で見て、現地の人から「生の声」を聞いて、多くのことを学び、感じた参加生徒の活動を本冊にまとめましたので、それぞれの教育委員会や学校において、防災教育・防災対策に取り組まれる際の参考にしていただけたら幸いです。

なお、本事業の実施にあたり、コーディネートいただいた四日市大学総合政策学部鬼頭浩文教授をはじめ、中高生をサポートしてくれた四日市大学「四日市東日本大震災支援の会」の皆さん、そして現地で私たちを温かく受け入れてくださった東松島市あおい地区会の小野竹一会長ほか、お世話になりました多くの方々に深く感謝申し上げます。

令和元年11月

三重県教育委員会事務局

学校防災推進監 明石 須美子

2 活動の概要

(1) 趣旨

近い将来南海トラフ地震の発生が危惧される三重県では、県内の中高生が自らの命を守り抜くことに加え、支援者となり得る視点から、安全で安心な社会づくりに貢献できる知識や能力を習得することが求められています。

そこで、県内の中高生を宮城県や福島県の被災地に派遣し、現地の方々との交流や心のケア等を中心としたボランティア活動、被災体験学習や防災学習を行うことなどにより、大規模な自然災害発生時に地域で自ら行動できる防災人材の育成に取り組めます。

また、被災地でのボランティア活動経験がある県内大学生の参加協力を得ながら、中学生・高校生・大学生による縦割班活動を行うことにより、集団生活のルールを学び、協調性や社会性を育てます。

さらに、参加生徒が防災士の資格が取得できるように支援を行います。

(2) 期間

令和元年8月5日（月）から8月8日（木）まで 3泊4日

(3) 訪問先

宮城県 ひがしまつしまし いしのまきし
東松島市、石巻市
福島県 ふたばぐんとみおかまち
双葉郡富岡町

(4) 参加者 計48名

【参加生徒】計37名

高等学校（23名：13校、男7名、女16名）〔県立17名、私立 6名〕

中学校（14名：11校、男7名、女 7名）〔公立11名、私立 3名〕

【引率者】計11名

引率者（大学教授 1名、養護教諭 1名、県教育委員会事務局 2名）

協力者（大学生 7名）

(5) 学習会

- ①事前学習会 7月14日（日）三重県吉田山会館
ハザードマップ、近年の自然災害、地震のしくみ
- ②現地学習会 8月 5日（月）～8日（木） 宮城県・福島県
主な行程は次ページ参照
- ③事後学習会 8月22日（木）三重県勤労者福祉会館
事業参加報告発表用資料の作成、知事との懇談
8月25日（日）四日市大学
普通救命講習、防災士試験（希望者のみ）

【現地学習会の主な行程】

8月5日（月）

- ・ 三重県伊勢庁舎 → 三重県庁 → 四日市大学 でバスに乗車
- ・ 三重県から宮城県に向けて出発
バス車内で自己紹介、事業参加に対する意気込みを発表
東日本大震災関連のビデオによる学習（旧大川小学校ほか）
- ・ 高速道路サービスエリアで昼食・夕食
- ・ 東松島市入浴施設（元気の湯）で入浴
- ・ 東松島市あおい地区集会所着
一丁目（女子）・三丁目（男子） 寝袋で避難所宿泊体験（3泊とも）

8月6日（火） ※兵庫県中学生・高校生防災ジュニアリーダーと合同

- ・ ポリ袋炊飯訓練
ポリ袋炊飯体験、災害備蓄食品試食
- ・ 講話「青い鯉のぼりプロジェクト」
青い鯉のぼりプロジェクト 伊藤 健人 氏
- ・ 流しそうめん交流会
災害公営住宅の戸別告知&見守り訪問
- ・ 石巻西高等学校視察&講話「避難所運営の実際」
東北大学非常勤講師 齋藤 幸男 氏
- ・ 東松島市入浴施設（上品の郷ふたごの湯）で入浴
- ・ バーベキュー交流会（あおい地区集会所）
あおい地区の皆さんと12班に分かれて交流
「しあわせ運べるように」「花は咲く」の合唱
- ・ 講話「大学生による被災地支援&地域防災活動」
四日市大学 江川 晃弘 氏
- ・ 講話「仮設住宅から復興へ」
東松島市あおい地区会 会長 小野 竹一 氏

8月7日（水）

- ・ 旧大川小学校視察&講話「津波のしくみと被害」
語り部 大川伝承の会 只野 英昭 氏
- ・ 旧野蒜駅視察&講話「避難と避難行動」
語り部 TTT 小山 綾 氏・武山 ひかる 氏
- ・ 講話「行政の災害対応」
東松島市役所 難波 和幸 氏
- ・ 講話「災害ボランティア活動」
東松島市社会福祉協議会 事務局次長 千葉 貴弘 氏
- ・ 東松島市入浴施設（東松島健康増進センター ゆふと）で入浴

8月8日(木)

- ・ 東松島市あおい地区出発
- ・ 福島県富岡町視察&講話「地域の復旧と復興」
富岡町 3.11 を語る会 副会長 渡辺 好 氏
※ さくらモールとみおか(富岡町内)から語り部がバスに同乗
- ・ 福島県から三重県に向けて出発
東日本大震災関連のビデオによる学習 (若い力でボランティアほか)
バス車内での振り返り
- ・ 講話「地域の自主防災活動」
四日市大学 鬼頭 浩文 氏
- ・ 講話「身近でできる防災対策」
三重県教育委員会事務局 教育総務課 森田 潤
- ・ 四日市大学 → 三重県庁 → 三重県伊勢庁舎でバスから降車

(5) 主な活動内容

I 事前学習会（7月14日）

8月の現地学習会に向けて、基本的知識を習得するため、ハザードマップや近年の自然災害、地震のしくみなどについて学習しました。

また、現地学習会では、班別行動が主となることから、班別に分かれて顔合わせと昼食を兼ねたざくばらんな意見交換を行い、メンバー同士の親睦を深めました。

この日は、保護者の方にも参加いただき、現地学習会の行程や持ち物、活動内容について確認しました。



三重県防災対策部の高山防災技術指導員から、「ハザードマップについて学ぶ」と題してお話をいただきました。いつ、災害が発生しても慌てることなく対応できるように、普段からイメージトレーニングしておくことや、災害は忘れた頃にやってくると言われることから、いつでも危険を感じたら迷わず避難することを忘れずにいること、震災後に高校生が果たした役割などについて学習しました。

その後、参加生徒は6つの班に分かれて、自己紹介をしたり、一人一人が参加目的等を発表したりして理解を深めた後、それぞれの班のリーダー・サブリーダーを選出しました。昼食を取りながら、ゆっくり話をする時間があつたので、参加生徒同士が「知らない人」から「同年代の仲間」に変わり、長距離・長時間の東北への現地学習会に行くことへの不安がやわらいでいきました。



四日市大学の鬼頭先生からは「近年の自然災害に学ぶ」と題して、阪神淡路大震災や東日本大震災、熊本地震など、近年の自然災害の現状や課題、防災士の役割などについてお話をいただきました。また、今回この事業にサポーターとして協力いただく、四日市大学の学生を中心に構成する「四日市東日本大震災支援の会」のこれまでの活動についてもお話いただきました。

自衛隊の吉井さんからは、「地震のしくみを学ぶ」と題して、地震の種類や震度とマグニチュードの違い、地震による被害などについて教えていただきました。今後30年以内に70～80%の確率で発生する南海トラフ巨大地震に備えて、準備しておくもの、命を守るためにできること、避難所生活になったときにすべきことなどについて学習しました。また、自衛隊が被災地でどのような役割を担っているかについて聞かせていただきました。



Ⅱ 現地学習会

【第1日目（8月5日）】

東北に向けて出発

夏の暑い日差しが照り付ける中、伊勢庁舎、県庁、四日市大学とそれぞれの集合場所からバスに乗り込み、東北へと出発です。最終乗車地の四日市大学では、サポーターのリーダーである大学生の江川さんの進行により、参加者全員が駐車場で円陣を組んで、この事業が無事に進み、全員がしっかり学習できるように、気合いを入れました。



バス車内での防災学習



宮城県までのバス移動中、ビデオカメラを回しながら、自己紹介とそれぞれの目標を発表しました。バスのテレビ画面に映していくことで、名前と顔を一致させることができました。

また、バスの車内においても、防災学習として、旧大川小学校や福島県富岡町などを特集したビデオを見て、これから視察などを行う場所や、そこで起きた災害や出来事などについて学習し、予備知識を身につけました。

あおい地区集会所

夜10時、入浴を済ませ、活動の拠点となる東松島市のあおい地区（男子：3丁目集会所、女子：西集会所）に到着しました。先に来ていた兵庫県中高生防災ジュニアリーダーの皆さんとそれぞれ顔合わせをした後、持参したマットや寝袋を使って、避難所における宿泊体験のスタートです。

実際に避難することになったら、やはり寝袋やマットがあると便利だと思いました。



【第2日目（8月6日）】

ポリ袋炊飯訓練

第2日目の活動は、兵庫県中高生防災ジュニアリーダーの皆さんと一緒に活動です。

まず、朝食を兼ねてポリ袋炊飯訓練を行いました。

鬼頭先生から、上手に炊くためのコツは、袋の空気をしっかり抜いて、袋の上の方で結ぶことだと聞きました。

災害時は水が貴重になることから、この方法では少ない水でたくさんの食事を作ることができるかと教えてもらいました。



講話「青い鯉のぼりプロジェクト」伊藤健人氏



青い鯉のぼりプロジェクトの伊藤さんから、ご家族の捜索時に見つかった青い鯉のぼりを、5歳で亡くなった弟や同じ東日本大震災で亡くなった子どもたちのために、地震や津波の心配の無い大空高くに揚げようと始めたプロジェクトについて伺いました。

テレビや新聞などのメディアから聞く話とは違い、被災者から直接聴く話は、それぞれの気持ちや想いが伝わってくると同時に、津波の恐ろしさを痛感しました。

流しそうめん交流会

近年の災害においては、災害公営住宅に入居した住民が、長引く避難生活の影響を受けて、家の中に引きこもってしまい、心や身体に不調をきたしてしまうことや、孤独死となることなどが課題となっています。

このため、災害公営住宅の入居者の見守り訪問や、イベントなどを行って住民の方々との交流を行うことなどがボランティアに求められていることから、私たちも個別訪問や流しそうめん交流会などを実施し、災害公営住宅の皆さんと交流を図りました。



視察&講話「避難所運営の実際」 齋藤幸男氏



東北大学非常勤講師の齋藤先生から、石巻西高校の教頭時代に体験した避難所運営の実際についてお話しいただいた後、ワークショップを実施しました。

石巻西高校に避難してきた人たちは、教員の指示を聞いてくれなかったそうですが、高校生が避難所運営に協力をしはじめると、生徒の言うことはみんなが聞いてくれるようになったと聞き、避難所運営において中高生でもできることがあることに驚きました。

バーベキュー交流会

あおい地区の住民の方と、三重・兵庫の中高生がテーブルを囲んで、事前に用意いただいたバーベキューを楽しみながら、いろいろなお話を聴かせてもらいました。避難所の経験のことだけでなく、最近の身の回りに起こったことなど、ざっくばらんにいろいろなお話をし、お互いとても楽しく過ごすことができたと感じています。

夕食後は、みんなで輪になり、阪神・淡路大震災や東日本大震災にちなんだ歌「しあわせ運べるように」や「花は咲く」を合唱しました。



講話「仮設住宅から復興へ」 小野竹一氏



あおい地区会の小野会長からは、あおい地区会設立までの経緯として、「あおい」という地区の名前を子どもも含めた住民投票で決めたことや、危険なブロック塀を造らないようルールを工夫したことなどについて、詳しくお話しいただきました。

あおい地区は、日本一住みやすい街づくりに取り組んでおり、平成29年と平成30年の2年連続で「快適度日本一」に認定されています。

【第3日目（8月7日）】

視察&講話「津波のしくみと被害」只野英昭氏

只野さんのご子息、哲也さんは、大川小学校で奇跡的に助かった4人のうちの1人です。親子で語り部として活動しています。

津波は、新北上川を遡上し、大川小学校に壊滅的な被害を与えました。学校のすぐ近くには普段から野外活動を行っていた裏山があり、なぜ裏山に登らなかったのか、その答えはまだわかっていません。津波は建物の2階部分も押し上げ、天井を壊す威力を持ち、その爪痕はしっかりと旧大川小学校に残っていました

ここでは、マニュアルどおりではなく、命を守る最善の方法をとることの大切さを学びました。



視察&講話「避難と避難行動」小山綾氏・武山ひかる氏



「東松島市震災復興伝承館」で、震災前の東松島の姿、震災が残した爪痕、復興の過程について学んだあと、津波で多くの被害を受けた旧野蒜駅のプラットフォームを視察しました。

また、T T T (TUNAGU Teenager Tourguide of Higashimatushima) の、震災当時小学生だった小山さんと武山さんから、被災時の状況や子どもたちの様子、そこから語り部になろうと思ったきっかけなどについてお話を伺いました。

講話「行政の災害対応」難波和幸氏

難波さんは、被災者でありながら、行政側の立場から復興のまちづくりを進めてきた方です。避難所の状況や福祉避難所の運営、ボランティアの調整などに携わってこられました。行政側のお話は、今回の学習会の中では初めてで、復興のまちづくりの大変さや、一日も早い住民生活基盤の復旧に取り組んできた方々の思いや情熱、課題などを理解することができました。



講話「災害ボランティア活動」千葉貴弘氏



千葉さんからは、災害ボランティアセンターで多くの高校生が運営を手伝ったことを聞きました。

中高生でも、ボランティアをするだけでなく、ボランティア受け入れを手伝ったり、被災者のニーズを聞きだしたりするお手伝いができると知りました。また、ボランティアの心得、例えば、ボランティアに出かけるときはボランティアセンターに相談してから行くことや、被災者の気持ちに寄り添う、心の痛みを思いやることなどについて教えていただきました。

【第4日目（8月8日）】

視察&講話「地域の復旧と復興」渡辺好氏

東日本大震災から8年半が経とうとしていますが、未だにバリケードが設置されている帰還困難区域があり、ところどころに警備員が立っています。現地をバスで周りながら、渡辺さんに現状をお話いただきました。

福島第二原子力発電所に近い富岡町の沿岸部にある、街のシンボル「ろうそく岩」は津波で流されてしまったそうです。

富岡町には、帰る自宅があるにもかかわらず、帰れない方がたくさんいるということに衝撃を受けました。



バス車内での振り返り



帰路はバス車内で、中高生による被災地支援、若者のボランティア活動等についてのビデオ学習をしました。

ボランティアに行っても、邪魔になるだけではないかという不安がありましたが、若い人が被災地を訪れるだけで、ボランティアになるということ、「いるだけ支援」というボランティアがあることなどを学びました。

最後に、4日間の内容を班別に振り返り、見たり聴いたりしたこと、学んだこと、そして心に残ったことなどを意見交換しました。

Ⅲ 事後学習会

パワーポイントで発表資料を作る振り返り学習（8月22日）



東北でのボランティア活動の思いや記録を共有しながら、これまでの活動を振り返って、各学校の集会や文化祭、市町等で報告会を行うための発表資料づくりを、大学生のサポーターにも手伝ってもらいながら行いました。

メンバーがそれぞれ、東北での講話を振り返り、これから自分たちができること、伝えていくこと、すべきことを話し合いながら、6つの班で分担して、資料をまとめました。

最後に、鈴木知事の訪問がありました。

総合リーダーである、昴学園高等学校の川上くんが、今回の活動で学んだことについて説明したあと、生徒がそれぞれ感じたこと、これからどのように防災に取り組んでいくかなどについて、知事と意見交換をしました。

知事からは、この体験を一人でも多くの人に伝えてほしいというお話がありました。



普通救命講習（8月25日）



四日市消防本部、四日市大学機能別消防団に所属している四日市大学の学生の協力を得て、防災士試験受験に必要な普通救命講習を受けました。普通救命講習は3時間の講習で、倒れている人の肩を両手でしっかり叩いて呼び掛けたり、周りの人に助けを呼んできてもらうよう頼んだりする訓練や、人工呼吸や心臓マッサージ、AEDの使い方など基本的な救命技術を身につけました。

防災士試験（8月25日）

希望者のみですが、一般の受験者とともに防災士試験に挑戦しました。学校防災ボランティア事業参加生徒の多くが意欲的に取り組みました。

3 取組成果

【成果】

- ・ 学校防災ボランティア事業の参加生徒らは、アンケート結果や感想文などから、中高生による防災ボランティア活動・被災地支援の意義・重要性が理解できたことがうかがえます。
- ・ 学校防災ボランティア事業に参加生徒に対し、防災士の資格を取得できるよう支援して、地域で自ら行動できる防災人材として育成しており、22名が合格しました。

(今年度合格者：22人 平成28年度からの累計85人)

- ・ 参加生徒の学校に対して、全校集会や文化祭、始業式や終業式、地域などで発表する機会を確保するように依頼しています。参加生徒らが学校等で活動内容を報告することにより、学校全体で防災意識の向上が図られています。

(写真：9月18日飯南高等学校で発表する青木さん)

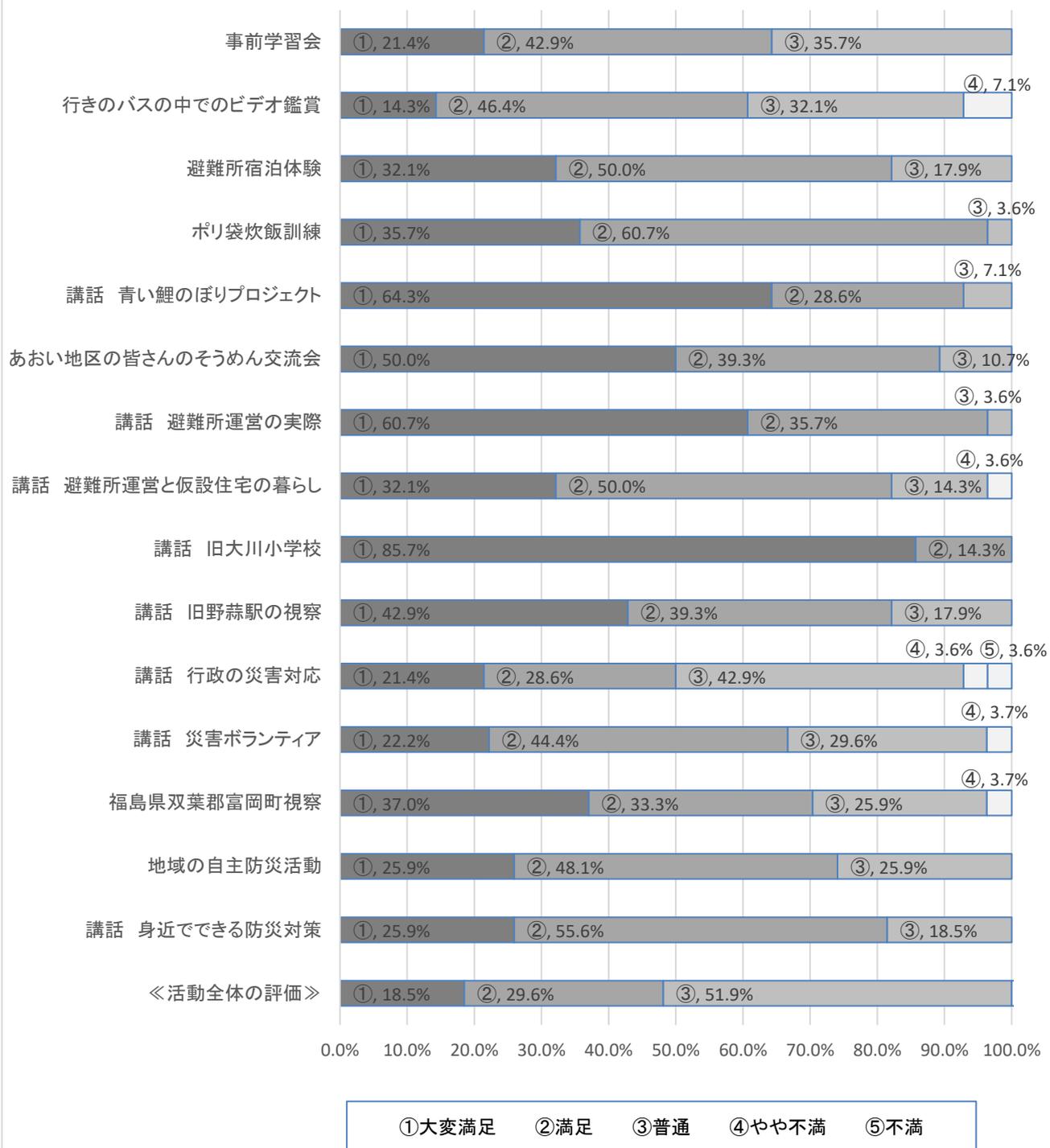


- ・ 市町教育委員会に対して、参加生徒に取組成果を地域で発表する機会が与えられるよう依頼し、生徒が地域の防災活動に参加するきっかけづくりに努めています。
- ・ 2月に開催予定の中高生防災サミットに参加生徒が参加することで、現地学習会等で学んだことをさらに深めるとともに、成果を県全体に広めていきます。
〔中高生防災サミット：2月9日（日）開催予定〕

【課題】

- ・ より多くの学校で防災意識の向上を図るために、参加生徒を県内から幅広く集める必要があります。
- ・ より多くの人に事業の成果を伝えるため、学校防災ボランティア事業で学んだことを発表する場をできる限り多く確保する必要があります。
- ・ 参加生徒が、その後も、地域を担う若き防災人材として活躍できるよう支援していく必要があります。

学校防災ボランティア事業参加生徒アンケート



中高生の君たちへ

四日市大学総合政策学部 教授 鬼頭 浩文

まず、みなさんには、本当に感謝しています。とてもハードな現地学習だけでなく、事前学習、課題、帰ってからの2回の事後学習、そして多くの中高生が防災士試験にチャレンジしてくれました。とにかく、参加してくれたことに感動していますし、常に真剣に取り組み、笑顔で東北の皆さんと接している姿には、「尊敬」という言葉が似合うほど、頼もしく感じました。さらに、帰りのバスや事後学習での君たちからは、その先の「伝えていく」というアクションが明確に予想できるほどの強い意志を感じました。



さて、その「伝える」アクションについて、皆さんにお願いがあります。ただ伝えるだけでなく、伝えた相手が、さらにアクションを起こすスイッチを押してほしいのです。君たちが伝えたことで、後輩たちが次の学校防災ボランティア事業に参加したり、今まで関心のなかった地域の防災訓練に参加するという形だったり、いろんなアクションを起こさせるきっかけになってほしいのです。そして、いつかは起こる大規模災害において、まずは自分や家族、親せき、友達が、しっかりと自分の命を守ることにつながり、次に勇気をもって笑顔で復興に向かって進むパワーを、たくさんの人に起こしてほしいと願っています。

私は、今まで2,000人を超える中高大生を被災地に送りだし、自分自身も100回以上被災地に出かけて100人を超える方と出会い、多くの人と深くつながりました。悲しい体験を共有することも多く、そのあまりの重さを「辛い」と感じることもありました。しかし、君たちのような中高生の気持ちに押され、また被災地に出かける勇気が湧いてきます。そして、もっと多くの中高生にチャンスを与え続けるアクションを何度も起こし、スイッチを押し続けていきます。

(追伸)

台風19号で、たいへんな水害被害が発生しました。四日市大学の学生が中心になって、四日市東日本大震災支援の会は、10月18・19日に長野市穂保に災害ボランティアに入りました。ここから12月まで、2週間に1回のペースで泥かきに行く予定です。

